



成長
企業
の
力

カーボンニュートラルの達成に向けクリーンな走りを実現する、日野プロフィア ハイブリッド。

荷主企業と運送事業者との 強固なパートナーシップで カーボンニュートラルの達成 を目指して

東京都
NOK株式会社／和喜輸送株式会社

環境負荷低減に貢献するため『NOK Twin Green Plan 2030』を掲げて

1941(昭和16)年に創立し、80年以上の歴史を歩んできたNOK株式会社。自動車を代表する多くの機械で使用する密封装置(オイルシール※1、リング、パッキンなど)を製造しており、中でもオイルシールは国内シェア70%を誇るほどです。また国内外15カ国93社で構成されたNOKグループでは、自動車をはじめとするモビリティやPC・スマートフォンといった電子機器、医療・ヘルスケア機器、産業用ロボット、そして人工衛星に至るまであらゆる産業分野に技術・製品を提供しています。

脱炭素化の潮流から同社グループでは、2050年にカーボンニュートラル達成を目指して策定された『NOK Twin Green Plan 2030』に基づいた活動を開始しており、製造工程および製品自体における環境負荷の低減を推進しています。物流部門

においては、倉庫に設置した太陽光パネルによって電力を賄うほか、シーリングファンを活用し倉庫内の冷暖房効率を上げるなどして省電力化を実現。製品輸送におけるCO2削減対策として、デジタル化推進と併せて中継輸送を進めていくとともに、今後は海上輸送でのモーダルシフトも検討しています。

「環境負荷低減に寄与できる製品、仕組みを作っていくことは私たちの使命のひとつ。それをビジョンとして掲げ実行しています」と語る谷山 英治執行役員は、環境配慮型の車両に対しても期待を寄せています。

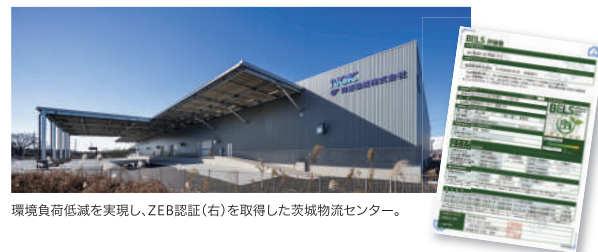
※1 自動車のエンジンやギヤードモーターなどに使用され、主に回転軸部からの油漏れや、外部からのほこりの侵入を防止する製品。さまざまな機械の密封装置として欠かすことのできない製品のひとつ。



パートナー企業とともに脱炭素化を目指す、NOK株式会社の谷山 英治執行役員 シーリングソリューション 事業企画本部長。



和喜輸送株式会社の基本三原則を順守し、荷主企業との強固な信頼関係を築く渡邊 峰行代表取締役社長。



環境負荷低減を実現し、ZEB認証(右)を取得した茨城物流センター。



NOKの高機能ブランド「Le-u's(レムーズ)」のオイルシールは、低フリクション(摩擦)技術で地球環境に貢献。



バイオマス材料を用いたポストコン(車線規制・視線誘導標)で、交通安全とカーボンニュートラルを目指します。

カーボンニュートラルの達成は、持続可能な社会の実現に向けて多くの企業に課せられている経営課題のひとつです。オイルシールメーカーのバイオンであるNOK株式会社は、脱炭素化を目指すべく、長期環境ビジョンである『NOK Twin Green Plan 2030』を策定し、環境貢献製品の提供や事業活動を推進しています。

また、同社のパートナーであり製品輸送を支える和喜輸送株式会社においても、環境負荷低減のためZEB認証を取得した物流センターを構えるほか、日野プロフィア ハイブリッドを導入。荷主企業と運送事業者の双方でカーボンニュートラルの達成に向けて取り組んでいます。

NOK株式会社

住所:東京都港区芝大門1丁目12番15号
代表者:代表取締役 社長執行役員
グループCEO 鶴 正雄
創立:1941(昭和16)年7月

和喜輸送株式会社

住所:東京都品川区西中延1丁目7番3号
TEL:03-6421-5091
代表者:代表取締役社長 渡邊 峰行
設立:1962(昭和37)年4月
従業員数:490名 保有台数:137台

製品輸送の一翼を担いカーボンニュートラル達成に前進

NOKの製品を安全かつ環境に配慮して運んでいるのが、和喜輸送株式会社です。1962(昭和37)年に設立した同社は、『和をもって喜んで働く 働いてお客様に奉仕する』の精神を持って自動車部品輸送を柱に事業を展開。87(昭和62)年にはNOKと資本提携を開始し、基本三原則である『1.遅れない 2.壊さない 3.間違えない』をモットーに強固な信頼関係を築いています。

同社においてもカーボンニュートラルの達成は使命。昨年完成した茨城物流センターはZEB※2認証を取得しており、環境および働く人にやさしい施設になっています。日野プロフィア ハイブリッドも、その一環として導入されたもの。

「乗り方をマスターすることで非常に良い燃費が出ています。今後もハイブリッド車を導入予定ですので、蓄積される燃費

データを注視していきます」と語る渡邊 峰行代表取締役社長。デジタコで燃費を徹底管理するほか、地場配送においては定期的にルートの見直しも行っており、輸送効率の向上と同時にCO2削減を実現しています。

さらなる脱炭素化に向け、FCV車やEV車の普及にも関心を高めるNOK株式会社。物流のプロフェッショナルとして、パートナー企業の中心的な役割を果たす和喜輸送株式会社。両社の強固なパートナーシップによって、カーボンニュートラルの達成に向けた一歩が着実に刻まれています。

※2 Net Zero Energy Building(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを旨とした建物のこと。